

いつも健康であるための地域医療情報誌

観光町

メディカル通信

Vol. 14
2014. 10発行/NTT西日本 高松診療所 予防医療センター 高松市観光町649-8 TEL087-839-9620(代) FAX087-861-7079
ホームページ <http://www.ntt-hospital.jp/>

審査 14-1839-1



人間ドック・健診エリアをリニューアルしました

皆様に、快適でスムーズな人間ドック・健診を受けていただくために見直し改善を実施致しました。

- 1 3階受付カウンターに仕切り板を設け、個人情報を守れるよう工夫しました。
- 2 1階・3階は検査フロアとして、2階は診察フロアとしてご利用頂きます。
- 3 男性更衣室をより広い部屋へ移動し、快適にご利用頂けるようになりました。
- 4 お弁当もヘルシーでボリューム感のあるメニューにリニューアルしています。

当施設は、平成14年3月に人間ドック・健診施設(予防医療センター)としてリニューアルしてから、早13年目を迎えました。当初は約500名のご利用で始まりましたが、昨年度には約6000名の皆様にお越しいただくようになりました。平成17年に「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を受けている施設として、受検者の皆様が、快適で、質の高い人間ドック・健診を安心して受けていただけるよう努力を続けております。また、当施設の理念である「明るく健康な生活を願う地域の皆様一人ひとりに合ったサポートをすることで地域医療に貢献する。」をモットーに、受検者の皆様の声に耳を傾け、「人間ドックや健診を受けるのならNTT西日本高松診療所予防医療センターへ」と言っていたただけるように、スタッフ一同、日々様々な改善を行っております。

当施設では、オプション検査が充実しているとともに、人間ドック・健診後のフォローアップ診療が出来る体制も整えています。皆様のご利用をスタッフ一同心よりお待ちしております。

予防医療センタースタッフ一同

リニューアルの紹介

受付



受付(3階)

- 受付カウンターは、プライバシーの保護を目的に仕切り板を設置しました。それにより、4名様まで同時に対応が可能となりスムーズに受付ができるようになりました。

検査フロア(3階)

1 採血室

採血室を個室にすることにより、プライバシーの配慮や落ち着いた雰囲気ですべての患者さんへの心配りが出来るようになりました。

採血室



2 動脈硬化検査室

今までは心電図室と同じ部屋で検査をしていましたが、検査室を分けることにより、それぞれの検査が同時進行で行えるようになりました。待ち時間が少なくなるよう努めています。

3 男性更衣室

今回、より広い部屋へ移動しました。新しく椅子も完備し、ゆったりとご利用いただけるようになりました。

動脈硬化検査室



男性更衣室



診察フロア(2階)

1 診察室

検査フロアと診察フロアを分けることにより、健診の流れを分かりやすくし、各待合スペースを十分に確保できるようにすることで、ゆったりと受診いただけるよう心がけました。

2 診察待合コーナー

診察室



診察待合コーナー



その他

弁当

昨年度より、より一層バランスの取れた食事内容にしました。当施設のオリジナルヘルシーメニューです。今後の参考にさせていただければ幸いです。





内科
石原 靖大

出身大学：香川大学
専門分野：循環器内科
趣味：レストランへ行くこと
最近のお気に入り：—
— 言：ていねいな診療を心がけます。よろしくお願いします。



放射線
三田村 克哉

出身大学：香川大学
専門分野：放射線科
趣味：ドライブ
最近のお気に入り：特になし
— 言：日々精進し、成長し続けられるよう頑張ります。よろしくお願いします。



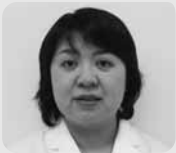
ドック
新見 道夫

出身大学：昭和大学医学部
専門分野：内科, 内分泌代謝, 臨床検査医学
趣味：歴史文学を読むこと, ウォーキング
最近のお気に入り：スポーツ世界選手権関連のテレビ観戦
— 言：人間ドック・健診の診察を担当しています。これまで培った経験を活かし、受診者への丁寧でわかりやすい説明に努めたいと思います。



ドック
木村 泰彦

出身大学：香川医科大学
専門分野：消化器病, 肝臓病
趣味：旅行
最近のお気に入り：ネコ
— 言：がんばります。



ドック
馬越 美紀子

出身大学：高知医科大学
専門分野：消化器内科
趣味：スキー
最近のお気に入り：娘達と「アナと雪の女王」を観ながら大合唱すること。ストレス発散になります。
— 言：微力ながらも地域医療、予防医療に貢献できたらと思っています。よろしくお願いします。



内視鏡
川田 幹浩

出身大学：大阪医科大学
専門分野：消化器内科, 内視鏡診療
趣味：スポーツ観戦
最近のお気に入り：音楽(坂本龍一, チェット・ベイカー, ミスチルetc)
— 言：微力ながら「誠意ある医療」をモットーに頑張るつもりですのでよろしくお願いします。



内視鏡
大浦 杏子

出身大学：香川大学医学部
専門分野：消化器内科
趣味：旅行, 料理
最近のお気に入り：辛味(特にタイ)料理
— 言：私は検診・胃カメラを主に任せていただいておりますが、病気の早期発見とともに患者様の苦痛の少ない検査を心掛けていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。



内視鏡
野村 貴子

出身大学：香川大学
専門分野：消化器内科
趣味：旅行
最近のお気に入り：STAND BY ME ドラえもん
— 言：主に人間ドックの内視鏡検査を担当しております。皆様の健康管理に微力ながら貢献できれば幸いです。宜しくお願い致します。



オプション検査紹介②

内臓脂肪測定

その2

表1 内臓/皮下脂肪面積比(V/S比)による生活習慣病関連因子検査値の違い
(男性 総脂肪面積150~250cm²)

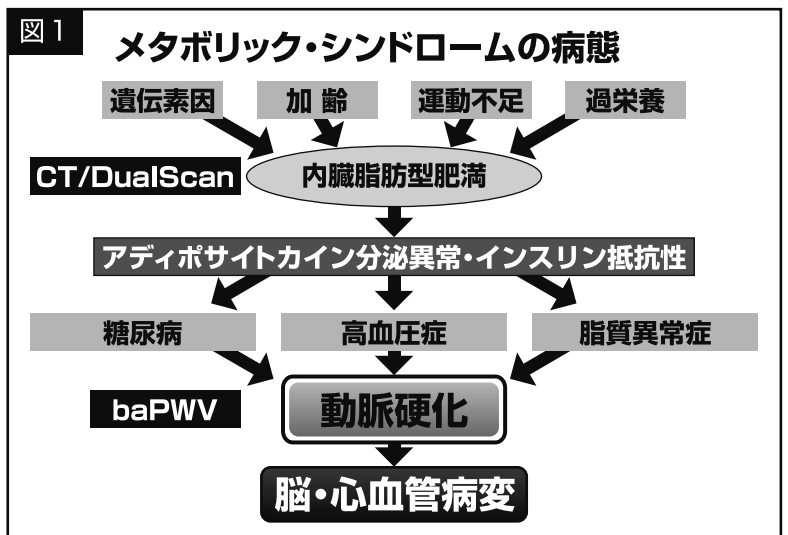
V/S比 人数	50%未満 144名	50%以上 237名	P (年齢の影響を考慮)
平均年齢	46±11	51±8	
収縮期血圧	120±14	126±15	p<0.05
拡張期血圧	74±11	80±10	p<0.01
HDL	57±13	54±13	p<0.05
LDL	117±27	124±30	p<0.05
TG	126±81	157±88	p<0.001
FPG	100±16	104±20	p<0.590
糖負荷 120分値	121±44	127±44	p<0.849
HbA1c	5.2±0.6	5.3±0.7	p<0.949
空腹時インスリン	6.3±2.9	6.3±3.0	p<0.635
BMI	23.8±1.8	23.7±1.8	p<0.517
腹囲	84±9	84±4	p<0.660
総脂肪面積	195.1±27.4	200.4±26.9	p<0.272
内臓脂肪面積	51.9±12.9	88.1±20.7	p<0.001
皮下脂肪面積	143.3±21.1	112.3±19.3	p<0.001
内臓/皮下脂肪面積比	36.6±8.8	81.5±28.7	p<0.001

福井敏樹 Arterial Stiffness No.19 16-21 2013 メジカルビュー社 一部改変引用

前回は、肥満のタイプ(リング型・内臓脂肪型肥満、洋なし型肥満・皮下脂肪型肥満)を知るためには、腹囲や体重を測定するだけでは判別が難しいことが多く、実際に内臓脂肪を測定して見る必要があることを中心にお話ししました。メタボリックシンドローム(メタボ)は内臓脂肪症候群とも呼ばれており、その名称からも内臓脂肪量がいくらなのか測定しなければならぬ時代になっていることもお伝えしました。では同じ肥満の程度であっても内臓脂肪

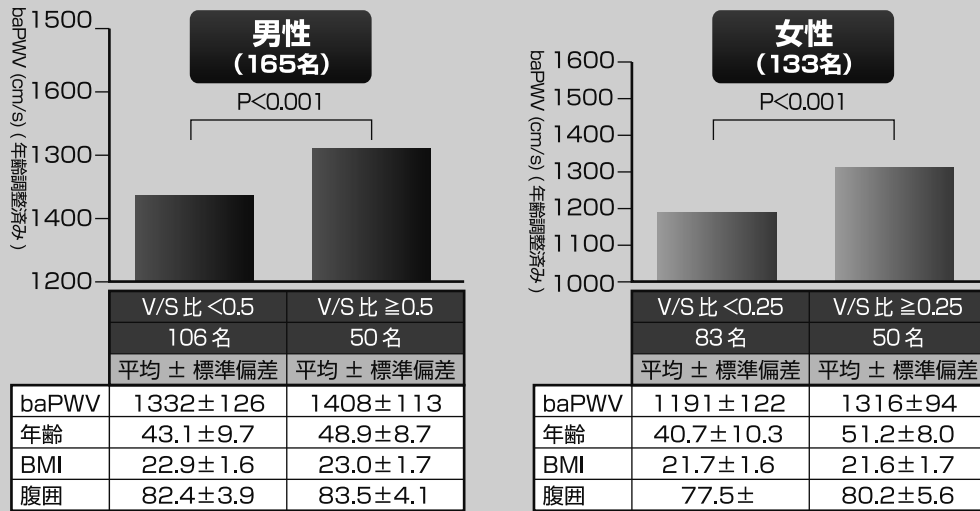
脂肪型と皮下脂肪型で健康状態の違いがあるのでしょうか。我々の施設では内臓脂肪と皮下脂肪の比率(V/S比)に注目して情報発信を続けてきたことも前回お話ししましたが、表1を少し眺めてください。少し混みいった結果表ですが、少し説明をしてみよう。この表はCTの測定による総脂肪面積(内臓脂肪と皮下脂肪面積の合計)が150cm²から250cm²の最も平均的な男性をV/S比50%未満(皮下脂肪型)と50%以上(内臓脂肪型)の2グループに分けて、生活習慣病に関連する因子の測定結果を比較したものです。どちらのグループでも腹囲は85cm程度、BMIは24程度と正常範囲上限の集団と言えます。V/S比は皮下脂肪型では平均37%、内臓脂肪型では平均82%です。内臓脂肪型でも内臓脂肪面積は平均88cm²ですから内臓脂肪型肥満にまでは至っていない段階といえます。そういうメタボ予備群的な人であってもよく見てみると、血圧や善玉(HDL)・悪玉(LDL)コレステロールなどの生活習慣因子が内臓脂肪型では数値がすべて悪いということがわかります。また内臓脂肪型であっても測定値は正常範囲内であることも大切なポイントで、生活習

慣病予防の観点からも内臓脂肪蓄積をできるだけ減らしていくことが重要で、状態を把握するために定期的に内臓脂肪を測定する必要がありますということになります。また内臓脂肪蓄積が動脈硬化に進展し、心・脳血管病変に至ることを防ぐことがメタボ予防の基本ですので(図1)、我々の施設で最も簡便な動脈硬化検査として10年以上継続してドック・健診に導入しているbaPWV値についても検討した結果を図2に示します。男女ともに内臓脂肪型の方が血管のステイフネス(硬さ)が高値を示しています。男女ともに平均年齢は



内臓脂肪型と皮下脂肪型でのbaPWVの比較

(CTの測定による総脂肪面積 150cm²~250cm²)



福井敏樹 Arterial Stiffness No.19 16-21 2013 メジカルビュー社 一部改変引用

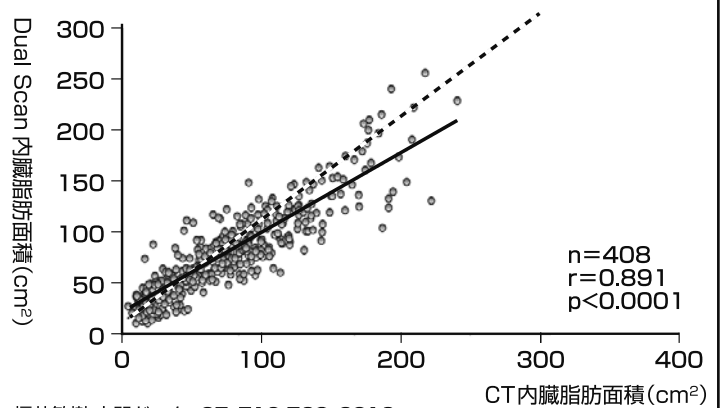


40歳代前半の方々で肥満の程度や生活習慣病因子がまだ正常範囲にある方であっても、すでに動脈硬化の進展に違いが認められています。ですから40歳代以前からのアプローチが大切であることもわかっています。内臓脂肪は健診や人間ドックで繰り返し測定していく必要がある検査であること、はわかって頂けたと思います。CTによる測定ではほとんど問題とならない程度ながら放射線の被曝の問題があります。緊急性のある検査ではないので特に妊娠可能な女性等には我々もできれば避けたいという気持ちがあります。近年開発され医療用内臓脂肪測定装置として認可されたデュアルインピーダンス法による「デュアルスキャン」という内臓脂肪測定

装置が使用可能となりました(オムロンヘルスケア(株))。我々のこれまでの実績を評価頂き共同研究を行い従来のスタンダードであったCT測定との直接比較を行い機器の測定精度を検証した結果を図3に示しています。ごらんのようにCT測定値と非常に高い相関が得られ有用性が示唆される結果となっています。この共同研究の成果は一昨年の日本ドック学会でのランチョンセミナーで講演させて頂き(図4)、論文としても報告させて頂いております。デュアルインピーダンス法は従来のインピーダンス法を改良して、脂肪を内臓脂肪と皮下脂肪に区別することを可能とし

図3

Dual ScanとCT測定による内臓脂肪面積の相関



福井敏樹 人間ドック 27:719-728, 2012.

The 53rd Scientific Meeting of Japan Society of Ningen Dock
第53回日本人間ドック学会学術大会

ランチョンセミナー12

人間ドック・健診並びに日常診療におけるメタボリックシンドロームおよび動脈硬化の評価
-DUALインピーダンス法による内臓脂肪面積測定と血圧測定検査(フォルムPWV, ABI)の有用性と測定結果解釈の注意点について-

日時 2012年9月2日(日) 11:40~12:40

会場 東京国際フォーラム 第3会場(5FホールB3)
東京都千代田区丸の内3-5-1

演者 福井敏樹 先生
NIT西日本総合診療所予防医療センター 所長

座長 梶田出 先生
武田病院健康センター 所長
京都大学医学部 臨床教授

人間ドック・健診並びに日常診療におけるメタボリックシンドロームおよび動脈硬化の評価

-DUALインピーダンス法による内臓脂肪面積測定と血圧測定検査(フォルムPWV, ABI)の有用性と測定結果解釈の注意点について-

NTT西日本総合診療所予防医療センター 福井敏樹

演者プロフィール
1983年 京都府立医科大学卒業、京都府立医科大学付属病院勤務、内臓脂肪面積測定装置の開発に携わり、その後、オムロンヘルスケア(株)に入社、同社にてDUALSCANの開発に携わり、現在、オムロンヘルスケア(株)でDUALSCANの開発に携わっています。また、DUALSCANによる内臓脂肪面積測定装置の有用性について、国内外の学会で発表し、その有用性を認められています。また、メタボリックシンドロームの診断に役立つ装置の開発に携わり、現在、オムロンヘルスケア(株)でDUALSCANの開発に携わっています。また、DUALSCANによる内臓脂肪面積測定装置の有用性について、国内外の学会で発表し、その有用性を認められています。また、メタボリックシンドロームの診断に役立つ装置の開発に携わり、現在、オムロンヘルスケア(株)でDUALSCANの開発に携わっています。

ました。また内臓脂肪をCTのように面積として評価するのではなく量として測定しているという点での有用性がある可能性もあります。いずれにしても、内臓脂肪測定は生活習慣病対策において、経年的に測定していく価値がある検査であることを我々の施設のデータが示しています。安価な検査価格(2500円(税抜))で実施していますので、年に一回の健診・ドックに合わせて検査を受けて頂き、ご自分の体の状態を知って頂くことをお願いいたします。(文責 観光町のアメニモマケズ)

図4

香川大学医学部消化器・神経内科同門会 「栗山賞」を6年連続受賞しました。

香川大学医学部消化器・神経内科同門会「栗山賞」を当施設所長の福井が今年も受賞し、この賞の創設以来6年連続受賞という快挙を成し遂げました。この賞は、大学内外の関連施設の中で最も対外的に価値のある学会報告や論文投稿などをしたと認められる者に授与される賞であることから、常日頃の積極的活動が数年に渡って認められ、また信頼されているということに感謝するとともに大変光栄に感じております。スタッフ一同これからも更なる研鑽に努めてまいります。

※「栗山賞」受賞部門は、20～22年は「学会部門」、23年は「論文部門」、24～25年は再び「学会部門」での受賞となりました。尚、所長の専門分野は消化器ではありませんが長年にわたって医師を派遣頂いている教室のため、同門会に属しているところからの連続受賞ということです。



第55回日本人間ドック学会学術大会

昨年に引き続き第55回日本人間ドック学会学術大会のプログラム委員を任せられるとともに、学術委員会企画シンポジウム「人間ドックにおける血管機能検査」の司会を担当しました。



プログラム委員	
委員長	福井 敏樹 (福岡市十津院 副院長)
アドバイザー	武藤 勉 (聖隷徳島医療センター 所長)
副委員長	山門 重 (近畿工業大学 看護学部 学部長)
	平方 秀樹 (福岡市十津院 副院長)
	河野 博之 (福岡市十津院 副院長)
	中野 祐司 (福岡市十津院 副院長)
	田中 透子 (福岡市十津院 健診部長)
委員	
	荒井 康司 (香川県立中央病院 消化器科 部長)
	橋本 洋一 (日本循環器学会福岡支部 (プラザ) 支部長)
	高橋 英孝 (東海大学医学部基盤診療学系健康管理学 教授)
	福井 敏樹 (NTT西日本高松診療所予防医療センター 所長)
	加 任隆 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	福井 健一 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	宇川 晴隆 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	盧 徳柱 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	平川 文敬 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	西田 寛 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	徳橋 隆一 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	高木 隆一 (福岡市十津院 消化器科 部長)
	澤山 典典 (福岡市十津院 消化器科 部長)

- シンポジウムⅢ
学術委員会企画シンポジウム「人間ドックにおける血管機能検査」
座長：福井敏樹 (NTT西日本高松診療所予防医療センター 所長)
高橋英孝 (東海大学医学部基盤診療学系健康管理学 教授)
演者：山科 章 (東京医科大学循環器内科学分野 主任教授)
野出孝一 (佐賀大学医学部循環器内科 教授)
石津智子 (筑波大学医学部医療系循環器内科臨床検査学 講師)
石坂祐子 (三井記念病院総合健診センター センター長)

第14回 臨床血圧脈波研究会にて 招待講演を行いました。

昨年に引き続き、本年も第14回臨床血圧脈波研究会(2014年6月7日、品川インターシティホール)においてフィーチャリングセッション「高血圧/心血管病予防のポピュレーションアプローチへの提言」にて招待講演を行いました。

- 講演名
「上腕足首間脈波伝搬速度 (baPWV) の10年間の縦断研究から～動脈硬化危険因子重積による検討からの解析～」
- 演者
福井敏樹

第14回 臨床血圧脈波研究会
PWV/ABIと中心血圧・AI
基礎から臨床・予防への応用まで

日程
2014年6月7日(土)
9:30～17:00

会場
品川インターシティホール
(品川駅南口徒歩約5分)

主催
山科 章 先生
(東京医科大学 循環器内科学)

協賛
Prof. Charalambos Vlachopoulos MD
(Athens Medical School, Hippokratium Hospital, Athens, Greece)
講師 (Invited speaker by pulse wave velocity)

講演題目
1. 動脈硬化の診断的価値とリスク管理
2. 動脈硬化の予防的価値

当院では主に生活習慣病の 治験を行っています。

当院では平成14年から臨床治験を開始し、主に生活習慣病、特に2型糖尿病や脂質異常症、高血圧症の治験について多く実績を積んできました
その他にも今までに下記の治験を行っており、現在は、2型糖尿病と脂質異常症の治験を実施中です。

当院の治験実績

- 治験実施数 → 41件
- 登録患者数 → 376人(のべ)

* 製造販売後調査を含む

疾患	治験実施数	登録数(のべ)
2型糖尿病	17	116
境界型糖尿病	2	19
高血圧症	5	63
肥満症	5	64
脂質異常症	8	81
高尿酸血症	1	16
気管支・呼吸器系	2	13
睡眠障害	1	6
合計	41	376

(2002.7~2014.6現在)

当院では、治験担当の
スタッフが常駐しています。

表にあるような疾患を
お持ちで治験に興味のある方や、
何か質問等のある方は、
ぜひ主治医に相談してください。



治験センタ長 安部陽一先生

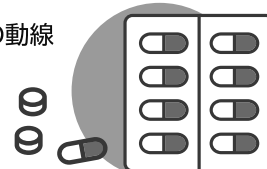
『Junior CRA Training ~医療機関における治験実施体制について~』を開催しました!

当院では、CRA※になって2年目のJunior CRAを対象とした研修会を6月28日(土)に開催し、治験が実際に医療機関でどのように実施されているのかを学んでいただきました。まずは、福井所長の講演から始まり、中西薬剤科長や、治験業務委託先である株式会社イーピーミントの治験コーディネーターから、詳細な治験の実施体制に関する説明などを実施しました。本日の学びを生かしてどう活躍されるのか、彼らの今後は楽しみです。

※CRA(Clinical Research Associate)とは、治験の依頼者である製薬企業の立場から、医療機関で行われる治験が、実施基準(GCP)や計画書に沿って適正に行われているかどうかの監視と確認(モニタリング)をする担当者のことです。

●実施した研修内容

- ・医療機関における、治験患者さまの来院から各種検査、診察、会計までの動線
- ・治験薬の保管方法や処方の流れ
- ・院内で治験に関わる職種とその業務内容
- ・治験に参加いただける患者さまを探す方法について
- ・医師や治験担当のスタッフがCRAに求める事 など



健康寿命ってご存知ですか？

健康寿命とは、WHO(世界保健機関)が2000年に提唱した言葉で、「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間」と定義されています。つまり、平均寿命と健康寿命との差は、日常生活に制限のある「不健康な期間」を意味するわけです。

誰しも健康寿命を延ばし、快適なシニアライフを送りたいと思っはるはず。そのためには日頃からの準備が必要で

その一つが骨を丈夫に保つこと。皮膚が新陳代謝を繰り返すように、骨もたえず壊されてはつくられ、新しく生まれ変わっています。これを骨代謝といい、古い骨が壊されることを「骨吸収」、新しい骨がつくられることを「骨形成」と呼んでいます。この「骨吸収」と「骨形成」のバランスが崩れて、「骨形成」が「骨吸収」に追いつかなくなると、骨の量(密度)が減り、骨に鬆が入った状態になって、ささいなことでも骨折を起すようになります。これを「骨粗鬆症」と言います。

(管理栄養士 山本由美子)

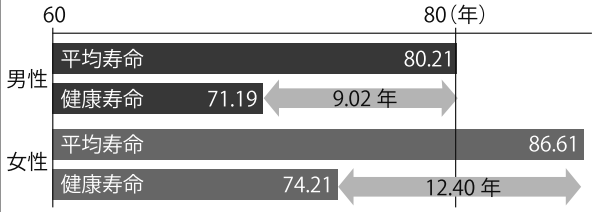
「骨粗鬆症」を予防し、健康寿命を延ばすためにも、ぜひ、今日から準備を始めましょう。

こうした生活習慣の改善によって防げることから、「骨粗鬆症」は生活習慣病の一つにも考えられています。

構成成分であるたんばく質やカルシウムを十分に摂取すること。喫煙、アルコールやコーヒーの飲み過ぎ、加工食品や塩分の取りすぎは、カルシウムの排泄を促し、腸管からのカルシウム吸収を阻害してしまうので要注意です。また、摂ったカルシウムを骨に沈着させるために、骨に適度な負荷をかけること。それにはウォーキングなどの運動習慣がとても有効です。

平均寿命と健康寿命の差:平成25年

〈厚生労働省〉



歯科健診のご案内

曜日・時間帯 月～金曜日、11:30～

健診内容 歯周病や虫歯の検査、かみ合わせのチェック

所要時間 約15～20分

費用等その他詳細については下記までお気軽にお問い合わせ下さい。

NTT西日本 高松診療所 予防医療センター

TEL:087-839-9630

電話番号をお確かめの上お間違いの無いようお願いいたします



編集後記

今夏は猛暑でもありましたが雨の多い夏でしたね。

渇水の心配は無くなったものの多すぎる雨によって各地で起きた災害被害があまりに多く痛ましかぎりです。改めて災害は身近なものとの認識にたち、避難場所の確認や非常食の確保等自分にできることから対策をしていきたいと思ひます。

当施設も皆さまに安心して来所いただけるよう、環境整備に力を入れております。

外来・健診等へ是非、足を運んでいただければと思ひます。健康を維持していくためにも、年に一度は必ず健康診断を受診しましょう。



この情報誌のタイトルである「観光町メディカル通信」は、当院の所在地である「観光町」から、医療・医学の情報を発信し、皆様の健康を守っていききたいという思いを込めて付けられました。